

第4章

テーマ4 平成19年度第1回「地域に参加し、地域に学ぶ」
—みんなが地域活動に参加しやすくなくなるヒントを考える—

平成19年7月13日(金) 午後2時～5時

ゲスト

市立井田病院園芸ボランティアセントポーリア班 黒川登志恵
「とどろき水辺の楽校」写真記録ボランティア 本告龍造
「老後を良くする会」配食サービスボランティア 山本幸彦
「富士通フロンティアーズフラッグフットボールクラブ」コーチ 輪島章司

- 輪島** アメリカンフットボールにもう20年ぐらいお世話になっており、お世話になったスポーツに対して恩返しというか、ぜひそれを広めていきたいという思いからボランティアをやってきました。
- 山本** お弁当を配るといのは、ただつくって配るだけではなく、手渡しをしながら顔色を見て、元気かどうかの見守りも兼ねている。お弁当を楽しみにして、配る時間にわざわざ外まで出ている方もいるし、「おいしいお弁当をありがとう」の一言が、作っている人たちの励みにもなっている。
- 黒川** 病院内の中でボランティアを受け入れてくれる組織がしっかりしており、困ったことも相談できる。病院や中原区の方々に支えられての活動で、ほかのボランティアに比べて恵まれていると感じている。こういうボランティア活動もあっていいのではないかと感じた。
- 本告** 町内会では自分が一番若手ではないか。もっと若い人に町内会の活動に入ってほしい。水辺の楽校は幼稚園児や赤ちゃん連れのお父さん、お母さんも参加してくれる素晴らしい会である。

第4章

ビデオ報告

市立井田病院園芸ボランティアセントポーリア班
「とどろき水辺の楽校」写真記録ボランティア
丸子通り1丁目町会
「老後を良くする会」配食サービスボランティア
富士通フロンティアーズフラッグフットボールクラブ

富士通フロンティアーズフラッグフットボールクラブのみなさんから

- 「自分の子どもを通して参加することが多いと思うが、子どもと接する時間は小学生くらいまでだと思うので、ぜひ迷わないで子どもと積極的に遊んでほしい」
- 「子どもの成長が見られるのはすごく楽しい」
- 「子どもと同じ目的を持って楽しめるというのがいいと思う」
- 「子どもと一緒に楽しめる形を見つければ、いくらでもこういう形があると思うので、そこから始めたらどうか」

「老後を良くする会」配食サービスボランティアのみなさんから

- 「みんなが楽しんでやっている。それが続く秘訣」
- 「地道にやっている活動がなかなか普通の人に分からない現状がある。いろいろな形をつくって調べられるようになると参加する人が多くなるのではないかと」

市立井田病院園芸ボランティアセントポーリア班のみなさんから

- 「子どもがこちらの病院にお世話になったので、恩返しができたら、と思ってボランティアを引き受けた」



富士通フロンティアーズフラッグフットボールチームの練習風景



中丸子老人いこの家でのお弁当づくり。今から配達です

- 「診察を受けに来た時にボランティア募集のポスターを見て応募した」
- 「ここで知り合って、そこからまた交流の輪が広がっている」
- 「患者が喜ぶのはもちろんうれしいが、自分自身も癒してもらっている」
- 「花を通しての仲間づくり、人との触れ合い、仲間を通じて見聞きする楽しさが素晴らしい」
- 「やってみようかな、と思うことが一番。受入体制はいろいろな所である程度あると思う。まず、声を掛けてみることではないか」

「とどろき水辺の楽校」のみなさんから

- 「ボランティアをはじめが一番楽しいのは、子どもたちの喜ぶ姿を見ることです。土日が充実して、最近では仕事のある平日より忙しい」
- 「スタッフとして頑張るとか、肩肘張ったらボランティアは長続きしない。一参加者として参加するくらいが継続できる」
- 「表に出て仲間を見つける。それが一番大事」
- 「仕事以外の人生、それが発見できたことが素晴らしい」

丸子通り1丁目町会のみなさんから

- 「その人にふさわしい役を町内会につくって迎え入れた」
- 「町会っていうのは何やっているのか、参加しないと分からないような組織。知らなかった人と知り合え、飲み仲間が増えたのがうれしい。普段は会社でのつき合いが多いが、自治会に参加して近所のつき合いが増えた。これからは、だんだん会社から地域に活動が移っていく、そういうことではないか」



栽培室で花の世話をする井田病院園芸ボランティアセントポーリア班



「とどろき水辺の楽校」で写真ボランティアを続けている本告さん



丸子通り1丁目町会の清掃活動

会議での意見

- ビデオ報告を見て、地域で活動する上で参考になるところが何点かあった。
一つは、子どもをきっかけに親を集める手段とか、講習会や勉強会を設けて参加してもらおうとか、町内会では役目を作ってあげることで会に入ってもらおうとか、具体的にこういうことをやっている、こういうことをやってほしい、とはっきり言うことがポイントではないか。活動を継続させていくという点では、ボランティアならば相手から感謝の気持ちが伝わってくることでまたやろうという気持ちが継続していくとか、自然体でやっていくことが大切とか、飲み仲間をつくるかがあったかと思う。また、課題として、町内会だと参加してみないと何をやっているかわからない、ボランティアグループだと何をしているかわからない、といったなかなか情報がないことがあるのかなと思う。区民会議も2年目を迎えたので、みんなでこんなことをやっていこうということが意見の中からまとまっていくとよい。
- ただボランティア活動に参加してください、と言ってもだめだと思う。その人その人の持っているス

キルを最大限に生かせる場をつくってあげる、その場に合った仕事をしてもらうのが一番だと思う。ボランティア活動は、全部自分持ちで本当に好きでやってもらうわけなので、自分の納得する活動を自分の思いどおりにやってもらうことが一番である。

- 町会も高齢化し、役員のなり手がいない。自分たちで率先して誘っていかないと、なかなか町会の役員にはなっていない。お祭りとか運動会、盆踊りは、一番コミュニケーションが図れる場である。これらが基本になって、地域に参加することが進んでいくのではないか。
- 昨年の区民会議報告書を運営している学童保育教室の保護者に配布したところ、皆さんが区をよくするために活動していることを知って、すごくうれしかった、ありがたい、といった感謝の言葉と、自分もできることからやってみたいという意見があった。
- 親子でも夫婦でも、家族ぐるみで活動できると仲間ができるのではないか。
- 楽しくなければなかなかできないので、やっている方の楽しいという声をウェブとか区役所のホームページに入れて、「若いお父さん求む」みたいな形で声かけに協力いただけるといいと思う。
- 日本でのボランティア活動は、仕事を持っていない人が主にやっている。仕事を持っている人でも参加できる環境を工夫する必要があると思う。
- 独身の人も参加できるような、全ての世代が何らかの形で参加しやすい環境が必要である。
- 町内会は、参加しない人から見ると何をやっているのかわからない。こういう活動をしているとか、住民にとってこういうプラスがあるということを積極的に訴えて、全員が参加できるような環境になるとよい。
- 町会の会合になかなかお父さんが出てこないの、町会で今月、母親クラブの協力でパーズクラブを立ち上げる。入口は広く楽しくということで、親子サマーコンサートや芋堀り、枝豆取りなどを計画している。いずれは参加した方が町会の役員にという心根もある。
- 区民としては、区役所に窓口ができたり、どこか1カ所に聞けば情報がすべて網羅できるような団体間のネットワークができたりすることが大切だと思う。広報紙はたくさんの方が見るので、そこでそれぞれの活動を案内して募集をかけていくことも大切だし、区民会議に出ている我々委員も、中原区にどういうボランティア団体があって、どういう活動をしているかという情報を持っていると、問題点の解決にもつながる。そのネットワークづくりが大切である。

地域での取組



中原区民交流センター開設式（平成20年3月10日）

会議をきっかけにして、区では平成20年3月10日、ホームページ「区民交流サイト・web なかはらっば」を開設しました。このサイトでは、あらかじめ利用登録した市民活動団体、サークルなどが活動の様子やイベント情報を自由に発信できます。併せて地域の市民活動の拠点として利用されていた区役所5階の「区民活動支援コーナー」も装いを新たに「区民交流センター・なかはらっば」としてオープンしました。

また、市政だよりで町内会・自治会活動を紹介するなど、地域活動に関する情報発信や地域活動を促す取組みが始まっています。

1. 区民交流センターと区民交流サイトのオープン

(1) 区民交流センター・なかはらっば

区民交流センターは、地域の市民団体の活動を支援するとともに、地域に活動の場を求める人たちの出会いや交流の場として位置づけています。

今回、交流センターには、従来の区役所5階「区民活動支援コーナー」の会議室の利用可能人数を増加（12⇒24名）し、さらに、来庁者の方が誰でも気軽に立ち寄ることができる交流の場・フリースペース（最大利用者数16名）を新たに設置して、区民の交流と地域の市民活動の拠点としての利用を促します。フリースペースからは、晴れた日には、富士山も見晴らすことができる絶好の眺望です。こうしたところで、地域のまちづくりについて語り合うこともできます。

今回の交流センターの立上げにあたっては約120団体の事前登録がありました（平成20年3月末現在）。今後は交流センターを活動拠点として地域活動を活性化させるための取り組みを行っていく予定です。



まちづくり推進委員会と協働で立ち上げた区民交流センター「なかはらっば」

(2) 区民交流サイト・ウェブなかはらっば



区民会議の議論の中で、「地域で活動する団体のネットワークや交流の必要性」や「地域の活動に参加したいが、地域活動の情報がない」といった意見が出ました。

区民交流サイト（愛称は「ウェブなかはらっば」）は、まさに、インターネット上で団体の交流や情報交換をはかるための新たなホームページです。平成18年度から区の協働推進事業として取り組んできたこのホームページの開設にあたっては、区内で活動する約500団体の意向調査をはじめとして、足掛け2年間にわたり構築作業が進められました。

区民交流サイトは、このサイトに登録した団体が、自らの「イベント情報」や「会員募集」などの情報を発信することができ、団体の地域のイベント情報などで作り上げられていくホームページであり、従来の行政情報発信を主な目的とする

ホームページとは異なる、新たな形態のホームページです。また、個人利用者は、関心がある分野の情報を自動配信するメールマガジンサービスも受けることもできます。

(3) 区民と行政の協働運営

区民交流センターと区民交流サイトの運営にあたっては、センターの運営や市民活動支援事業の充実のために、「中原区まちづくり推進委員会」と区役所との協働で運営を行っています。「中原区まちづくり推進委員会」は、区のまちづくりの課題解決のための実践活動や市民活動団体の支援を目的に活動を長く行っている団体であり、開設にあたっては、まちづくり推進委員会の意見を反映しながら二人三脚で準備を進めてきました。将来的には、区民交流センターを利用する多くの市民活動団体の意見を取り入れながら、区の市民活動拠点として発展していくことが期待されます。

コラム

<区民交流サイトの利用団体に聞きました！（下小田中2丁目町会）>

区民交流サイトは、平成20年3月10日のオープンから、1日平均200～300件のアクセスがあり、新たなホームページとしては順調な滑り出しとなっています。団体の情報発信も、オープン当初から1日平均4～5件あります。本欄では、町内会の活動の様子について情報発信を行った下小田中2丁目町会の谷田部さんに区民交流サイトについてお話を伺いましたのでご紹介します。

Q 区民交流サイトを利用して初めての感想は？

A 「これまでは町内会では住民の方々への情報発信の方法が回覧やポスター掲示などに限られていて、情報が伝わるのに時間がかかっていましたが、このサイトを利用することで、費用がかからず（サイト利用は無料）、スピーディーに情報発信することができるのが魅力です」

Q 区民交流サイトの使い勝手はどうですか？

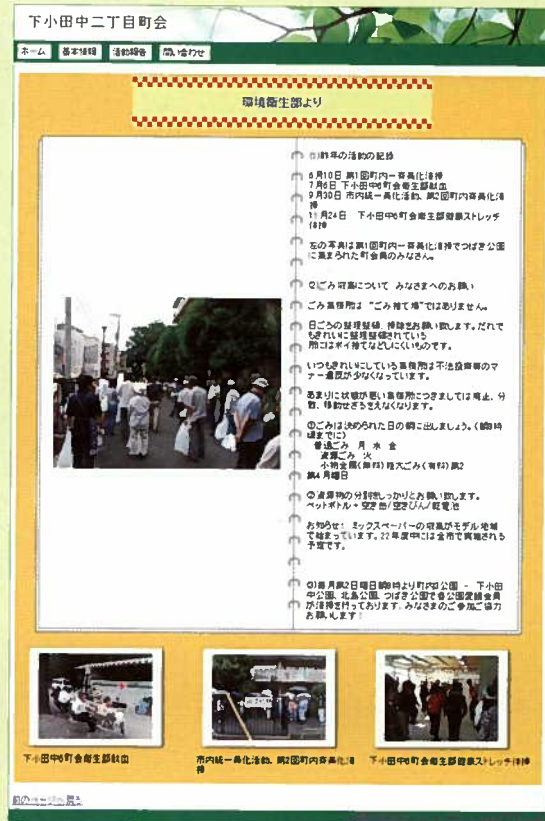
A 「ホームページというとは皆さん難しく感じるかもしれませんが、このサイトは決まったフォームに入力していただければ、インターネットを閲覧するなどのパソコン利用の経験があれば、すぐに使えるのではないのでしょうか」

Q 今後区民交流サイトにどのような役割を期待しますか？

A 「最近新しい住民の方々が増えています。町内会としては、以前から地域に住んでいる人と新たに住民となる人との間のコミュニティ形成が大変重要な課題と思っています。この区民交流サイトで町内会の情報を発信することで意識的に新旧の住民の方々への地域での活動への参加を促すきっかけになってくれるのではと期待しています」

谷田部さん、取材へのご協力ありがとうございました。

中原区では、小杉駅周辺の再開発地区をはじめとして、これから多くの新しい住民の方を迎えることとなりますが、近年都市圏の若年世代を中心に、地域のまちづくりへの関心が薄らぎ、町内会活動などの地域での活動への参加が少なくなっている傾向があるとも言われており、中原区が例外であるとは言い切れません。区民交流サイトが、住民と地域活動を結ぶ橋わたしの役割を果たしていくことが期待されます。

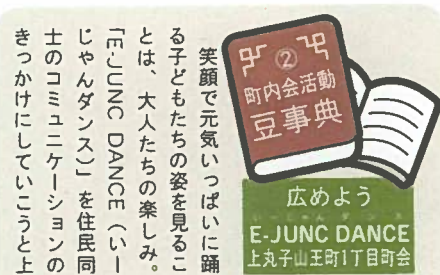


町内会の清掃活動の様子をサイトで紹介

2. 「市政だより中原区版で町内会・自治会活動を連載記事で紹介」

市政だより中原区版では、町内会・自治会の活動のようすを取材し、広く紹介することで、町内会・自治会に親しみをもってもらおうと、川崎市政だより中原区版平成 20 年 1 月 1 日号から連載記事を始めました。

タイトルは「町内会活動豆辞典」。高齢者の声かけ運動やお花見・もちつき大会、ダンスなど特徴的な取組みを紹介しています。少しでも地域を守る町内会・自治会の活動をより多くの人に理解してもらい、より多くの人に参加できるように区役所広報担当が現場に赴き、元気な活動の様子の取材を行っています。



丸子山王町一丁目町会では、地域の小・中学校に広めています。

「E-JUNC DANCE」は、盆踊りの「川崎おどり」をダンス用に編曲したものです。平成

十七年から市内のさまざまなイベントで披露されるようになりまし。町会の盆踊りや丸子地区連合運動会に子どもたちの踊る姿に、心を動かされ、ほかの町会に広げようという動きもあります。「E-JUNC DANCE」で地域の交流を深めてみませんか。

上丸子山王町1丁目町会
山王会館 ☎(43)9478。
区役所総務企画課 ☎(74)3149、FAX(74)3340

中原区版での町内会・自治会を紹介する連載記事

第4章

3. そのほかの取組み

[地域で]

- 「とどろき水辺の楽校」の活動を小杉陣屋町1丁目町会にも参加を呼びかけていく予定。
- 「とどろき水辺の楽校」と中原ロータリークラブとの連携を進めている。
- 小杉町2丁目町会で青色防犯灯を設置したことについてアンケートを取ったら様々な意見があり、今後の町内会のあり方や活動の参考となった。
- 子育てサロンの案内チラシに、地域ボランティアの募集を掲載して参加を呼びかけている。
- 「なかはら子ども未来フェスタ」や「なかはら福祉健康まつり」で子育てサロンを紹介した。
- 中原中学校区地域教育会議では、七福神めぐり、桜散策、スミレを見る会など地域と交流しながら学習している。
- 新丸子子ども文化センター運営協議会と中原中学校区地域教育会議とで協力して高校生との子ども文化センターペンキ塗り、上小田中7丁目の畑で「親子・高齢者とのさつまいも掘り」などの会を開催した。



平成 19 年に開催された小杉地区ワークショップのようす

[行政として]

- 地域福祉講座において、小杉地区社会福祉協議会では、「町内会や社会福祉協議会内の住民ニーズ、課題を福祉の視点で考えよう」をテーマとしてワークショップを開催し、地域が抱える福祉課題について意見交換を行った。
- 第2期地域福祉計画で地域の福祉活動に関心を持つきっかけとして、ワークショップ、中小企業などへの「まちなか講座」などの施策を計画、平成 20 年度から実施を予定している。